

●善光寺だよ

# 釈迦殿脇侍の開眼式



八日、お不動様の例祭に因み、大本山総持寺祖院監院・乾坤院住職鷲見透玄老師を大導師に拝請して点眼法要をおこないました。法要の次第は次のとおりです。

一、法話 龍光寺住職 佐藤俊明老師  
右終って引続き

一、大導師上殿 一、拈香法話(後掲)

一、上香、点眼 一、献茶湯

一、普同三拜 一、読経(普門口品偈)

一、回向 一、普同三拜

一、大導師挨拶

引 続 き

一、祝辞 開基家 村岡 有尚殿

総 代 伊藤喜二郎殿

一、感謝状贈呈

一、山主挨拶

昭和五七年一〇月落慶して以来、釈迦殿には本尊釈迦牟尼仏の尊像一軀だけでしたが、このほど念願の脇侍の制作が完了し、去る十一月二十

法

文殊大士

通身是智

假生金毛

莫認蹤跡

誰知厥高

普賢菩薩

色身妙現

象背如蓮

行願無尽

明月嬋娟

三尊瞻仰

智行在左右

兩足大雄尊

三箇無為徳

元來絶語言

長仰万善慈光尊

成寿山色大悲生

語

通身これ智

金毛(獅子)に假(駕)生す

蹤跡を認むること莫れ

誰か知る厥高きを

色身、妙に現じ

象背、蓮の如し

行願、無尽

明月嬋娟たり

三尊を瞻仰したてまつる

智、行、左右に在り

兩足大雄尊

三箇、無為の徳

元來、語言を絶す

長く仰ぐ万善慈光尊

成寿山色、大悲を生ず

感謝状

翠雲堂 山口 之徳 殿

貴社は当山釈迦殿脇侍文殊普賢両菩薩の勧請にあたり当代屈指の大仏師西村房蔵氏が入魂の力作を納入されました。これ実にさきに納入された本尊と共に善光寺釈迦三尊として歴史に遺る不朽の名作であり感謝にたえません。茲に開眼の儀則を厳修するにあたり記念品を贈り深甚の謝意を表します。

西村 房蔵 殿

貴殿は当山釈迦殿脇侍勧請にあたり格別の力量に精魂を傾け見事に文殊普賢両菩薩を制作されました。これはさきの彫像本尊と共に善光寺釈迦三尊として長く歴史を飾るものであり歡喜愉快感謝にたえません

茲に開眼の儀則を厳修するにあたり記念品を贈り深甚の謝意を表します。